

民間支援機関・実務者紹介 ～早稲田大学広域 BBS 会～

今回は、早稲田大学広域 BBS 会の末田真緒会長にインタビューを行いました。

「BBS」とは「Big Brothers and Sisters」の頭文字をとった略称で、これは当初米国で展開されていた運動に由来します。BBS 運動 (Big Brothers and Sisters Movement) は、子ども・若者が非行に陥っても立ち直ることができ、生きづらさを抱えながらも安心して生きていける社会を築こうとする、青年が先導する全国的な運動です。

BBS 会は、様々な問題を抱える少年と、兄や姉のような身近な存在として接しながら、少年が自分自身で問題を解決したり、健全に成長していったりするのを支援するとともに、犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す青年ボランティア団体で、日本では約 4,000 人の会員が参加しています。BBS 会の役割についてお話を伺いました。

早稲田大学広域 BBS 会 末田真緒会長インタビュー (令和 7 年 12 月 10 日)

——BBS 会の活動内容を教えてください。

BBS 会の活動には、更生保護活動、健全育成活動、自己研鑽活動、更生保護に係る広報活動の四つがあります。

更生保護活動には、まず、ともだち活動と呼ばれる活動があります。東京保護観察所から依頼を受けて、特定の BBS 会員が、非行に陥ったり生きづらさを抱えたりしている子どもや若者と「ともだち」になることを通して、一定期間継続して個別的に寄り添い、それぞれの立ち直りや再チャレンジを支え、自分らしく前向きに生きていくことを促す活動です。守秘義務があるので、受けている案件についてはお話しできません。依頼があった対象者と BBS 会員とをマッチングして、担当となった会員は誓約書を書いた上で活動しています。ともだち活動は、会員の中でもやってみたい活動の上位に入っていますが、少年犯罪の減少に伴って依頼も減ってきており、会員からの人気が高いからといって活発に活動できるわけではないのが現状です。さら



早稲田大学広域 BBS 会 末田真緒会長

に、新宿区内の更生保護施設更新会で行われている SST (Social Skills Training) に毎月 2 回参加しています。

次に、健全育成活動は、子どもと関わることのできるボランティア活動です。特定の個人ではなく、子ども・若者に広く働き掛けていく活動です。母子生活支援施設等の施設に行き、子どもたちの宿題の手伝いやお料理などを行っています。残念ながら、新型コロナウイルスの流行後につながりが途絶えてしまった施設等もあります。

それから、自己研鑽活動として、全会員を対象に、勉強会や施設見学といった内容の自主研修やミーティングを月 1 回実施しています。

また、更生保護活動に係る広報活動として、新宿区における社会を明るくする運動や、早稲田祭へ参加しています。なお、早稲田大学内の諸団体が連携して開催する「早稲田矯正保護展」を、様々な更生保護団体の協力を得て毎年開催しています。

——貴会の特色を教えてください。

都内の色々な大学からメンバーが集まっている、早稲田大学のインカレサークルです。会員数は 100 名を超えており、大学にある BBS 会としては国内屈指の規模です。顧問以外のメンバーは学生であることが条件で、学校を卒業したら OB になるか、一般の BBS に移るかを決めます。

——末田会長が BBS 会に入会されたきっかけは、どのようなことだったのですか。

私は、犯罪に至る経緯や心理に興味を持って早稲田大学を受験し、現在 2 年生で文学部心理学コースに在籍しています。調べていくうちに、自分が興味を持っている分野にアプローチするには、犯罪後のプロセスに関わっていくのも重要なのではないかと思うようになって、BBS 会に出会って入会しました。

他の会員にも BBS 会に入会した動機を聞いてみると、人によってさまざまです。中でも、子どもに関わるボランティアをしたいと思って入ってきた人は多いようです。また、法学部のゼミで法律を学んでいく中で BBS に興味を持って入会する人もいます。

——貴会はどのような団体とかかわりを持っていますか。

更新会(新宿区内の更生保護施設)において SST のお手伝いをしています。所沢シークレットベース(地域の中高生が始めた居場所づくり)のおまつりや日々の学習支援に伺っています。また、更生保護活動をしている他団体とも共同の勉強会を行っています。毎年 7 月の社会を明るくする運動は東京都 BBS 会や東京保護観察所からお誘いいただいて参加しています。

——会長としての今後の抱負を教えてください。

運営する立場になって初めて見えてくることが多く、更生保護に関わることの難しさなども感じてとても勉強になっています。この会では学生の間しか活動できませんが、大事な活動なので、会として長く活動を継続していけるように繋げていきたいと思っています。

——このメールマガジンは東京都内の区市町村の再犯防止に関わる担当者の方が読んでくださっています。日ごろの活動の中で感じていらっしゃるなどを、メッセージとしてお聞かせください。

目の前にいる人を見捨ててはいけないと思います。最近は特に子どもたちに関わる人が多いのですが、子どもといっても多種多様で、母子家庭でお母さん命という子、兄弟の仲がうまくいかない子、学校に馴染めなくて不登校になった子など、何かしら悩みを抱えています。その悩みを「自分には関係ない」と切り捨てるのではなく、「力になってあげたい」という言い方では偽善っぽくなってしまいうのですが、「自分にも何かできることがあるかもしれない」と考えることがその子たちの希望になると信じたいです。

子どもたちに会いに行くと「そこで傷ついている子がいる」という逃れられない現実を直視しなければならず、苦しく思うこともあります。そしてその現実を変えていくことの重要さ、難しさも同時に実感します。その子たちはもっとしんどいと思うからです。その子たちがいるという事実を受け止めるだけでも、その子たちにも、その子たちを作ってしまった社会にも、変わるきっかけになるというか、少なくとも制度や支援に対する考えなどは変わってくると思います。

大学に BBS 会のような組織を置くことで、若者が社会の中に存在しているこうした事実を知るようになり、将来の進路選択にも影響していきます。そして、いつか「こういう子たちもいたな」と思い出して、それが、社会が変わっていく、変えていく力になるということが、早稲田大学の BBS 会の存在意義だと思います。



早稲田大学広域 BBS 会

ロゴマーク